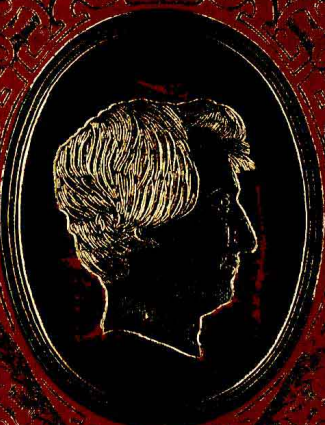


Goethe's Sämmtliche Werke



ハイネ全詩集 V

井上正蔵 訳

最後の詩集

LETZTE GEDICHTE



角川書店

最後の詩集

ハイネ全詩集

第五卷



昭和48年2月20日初版発行

訳者 井上正蔵

発行者 角川源義

印刷者 橋本伝四郎

製本者 鈴木俊一

表紙彫金者 綱井吉太郎

発行所 株式会社 角川書店

東京都千代田区富士見2-13

郵便番号102・振替東京195208

電話 東京(03)265-7111(大代表)

新興印刷・鈴木製本 落丁・

乱丁本はおとりかえ致します

最後の詩集



目次

- 1 安息を渴望して
- 2 五月に
- 3 肉体と靈魂
- 4 赤い靴
- 5 バビロンの憂愁
- 6 奴隸船
スレーブ・カルゴ
- Ⅰ 船荷親方……
- Ⅱ はるかな空の……
- 7 さげすみの城
- 8 続ラザロ詩篇
- Ⅰ 神聖な寓話を……
- Ⅱ 黒服の女は……
- Ⅲ なんとゆっくり……

4

17	かっぱらいの夫婦	二三
18	青春牡猫詩的音楽クラブ	二三
19	国なしハンス	二三
20	田舎町の恐怖時代の思い出	二七
21	謁見	二四
22	コベス一世	二七
23	エピソード	二六

詩集補遺 『ロマンツェーロ』補遺

〔歴史と寓話〕

救世者	二六
酒保の女の歌	二六
決闘	二五
涙の谷	二五

エドゥアルト	一七
辮髪時代から	一七
徳の高い犬	一五
馬と驢馬	一八
ビミニ島	
プロローグ	一七

I キューバ島の……	二四
II 騎士は昔の……	二四
III 太陽は明るく……	二四
IV ホアン・ポンセ・ デ・レオンは……	二五

〔哀哭調〕

ライン河の左岸と右岸	二四
中世のような蛮風は……	二五

オルフェウスのように

かれらは偽りの唇で……

心を有ち ハート その心に……

「二度と思い起こされては……」

夜
心が荒んで……

セリメーヌ

もう
砂時計のなかで……

その花束は……

わたしは牧者の運命を……

はげしく炎々と……

疑いもなく……

なんたる罪だ……

心から願って……

ム
ー
シ
ユ
に

わたしの思いが……

灼けた鉄鍔で……

二六七

Oct 11

三

二七四

二七六

二七八

三六

三三

二六六

二六

二八九

二九〇

二九二

二九四

景

—

蓮の花

言葉ばかりで……

わたしの頭のなかで……

蛭がたっぷり血を……

永遠よ……

時間
日々……

まったく恐ろしく……

ぼくの昼は明るく……

幸運に恵まれた人たちを……

ああ
それが
どんなに……

モルヒネ

死がやってくる……

別れゆく者

〔時事詩〕

南欧の伝説

新アレキサンダー	三五	讃歌	三八
Ⅰ トゥーレにひとりの……	三五	南京虫	三九
Ⅱ いま新アレキサンダーが……	三五	Ⅰ 褐色の南京虫が……	三九
Ⅲ 「余の師……	三六	Ⅱ 各国の毒虫どもが……	三九
ルートヴィヒ王から	三六	耳に聞こえたこと	三九
プロイセン国王へ	三六	エドゥアール・Gに	四〇
わが海軍	三六	愚直居士 ^{ジレンツェン} 一世	四〇
シュレージエンの織工	三七	長耳王一世	四〇
愛するドイツの……	三七	驢馬の選挙	四一
気まぐれに……	三七	数がこなす	四一
ふかい溜息	三七	一六四九年—一七九三年—???	四一
三月以後のミッヒェル	三七	流浪の風	四二
答え	三七	〔雑〕	
幹旋	三七	むかし一人の悪魔が……	四二
或る政治詩人に	三九	聖書の合理的解釈	四二
祝詩	三九		

忠告	四八	ヴェンネベルク頌	四九五
戒め	四九	第一詩 詩の女神ミューズよ……	四九五
備忘	五〇	第二詩 軒をかきながら……	五〇〇
愛の言葉や……	五〇	ぼくは天国を……	五〇四
わが弟マックスに	五〇	おまえがキスして……	五〇七
夜も昼も……	五一	ある変節者に	五〇八
目的論考	五一	「眼よ……」	五二〇
チトロニア	五二	堂守の娘さん……	五二三
雅歌	五二	ごきげんよう	五二六
主を讃えよ ^{ヘルレンヤ}	五二	昼は天国のように……	五二九
		きのう交わした接吻の……	五三二
拾遺		駢落	五三三
		不実な女ルイーゼ	五三六
愛の挨拶	五七	頌歌	五三九
白い花	五八	ドイツ	五四〇
夢と生	五九	ゲオルク・ヘルヴェークに	五四三

	ルートヴィヒ王讃歌	五三			
	Ⅰ さて バイエルン国の……	五三		梟が勉強した……	五七
	Ⅱ バイエルン国の……	五七		遺言状	五四九
	Ⅲ ミュンヘンのお城の……	五四〇		どこに	五三
	おお ホフマンよ……	五四四		とんぼ	五五
略注					
解説					
			五九		
			五七		

一八五三・四年詩篇

1 安息を渴望して

おまえの傷に血を流させるのだ

涙もおさえず流させるがいい

人知れぬ^{よろこび}快楽は苦痛に埋もれ

流す涙は甘い香油だ

他人の手で傷つけられなければ

おまえは自分で自分を傷つけねばならぬ

涙がおまえの頬^{ほお}を濡らすとき

おまえは神様にせいぜい感謝すべきだ

昼の喧騒はしだいに消えて

夜が長いヴェールをつけて降りてくる

夜のふところでは無頼漢も

乱暴者もおまえの安息を妨げないだろう

そこではおまえは 音楽から

ピアノの拷問から

そしてグランド・オペラの華やかさから

華麗な演奏のおそろしい騒音から免れられる

そこでは虚名の大家の輩に

ジャコモ・マイヤーベール（註）の天才に

その 有名なお傭いの喝采屋に

せきたてられ苦しめられることはない